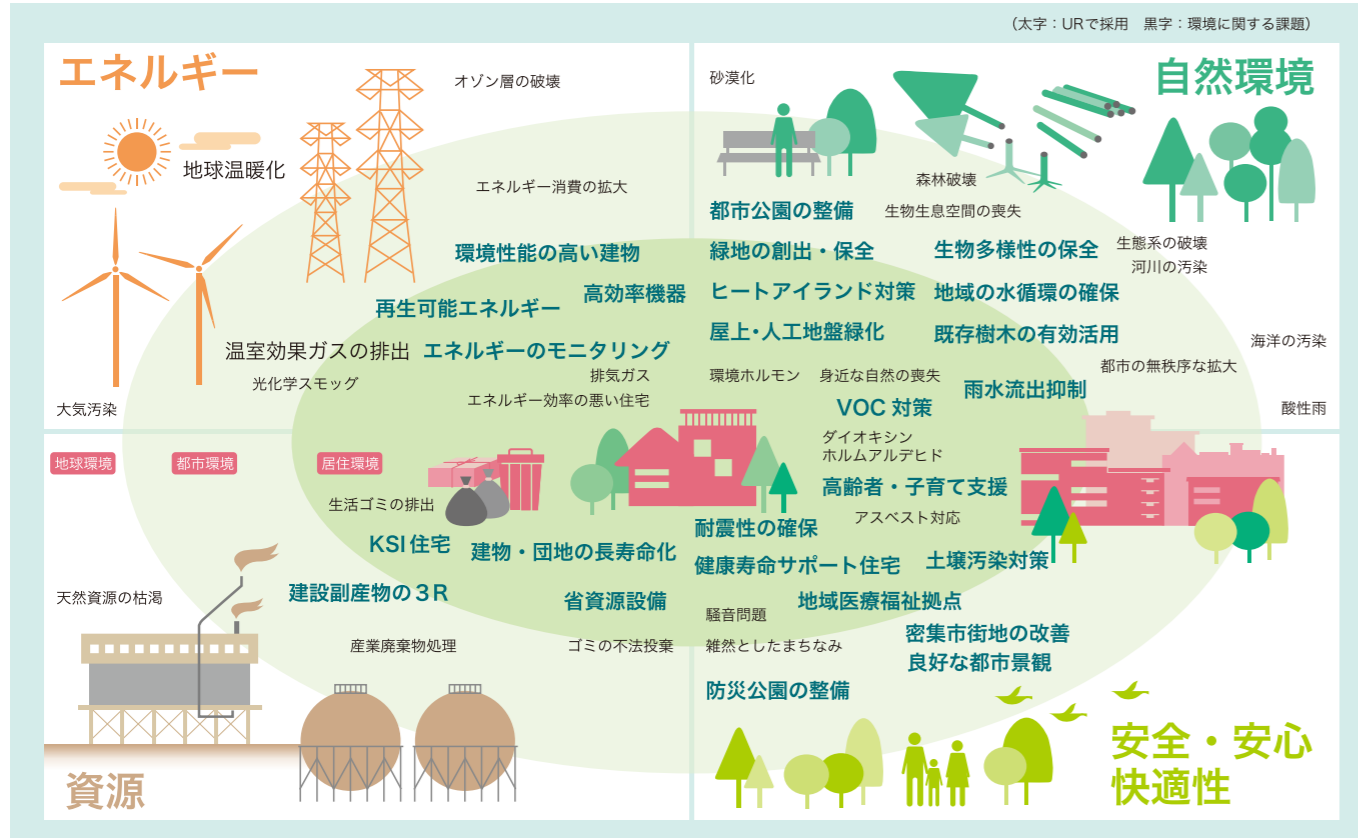


環境への取り組み

URは、まちや住まいづくりを進めていくに当たり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。この方針に従って、環境に配慮した取り組みをさまざまな業務フィールドで進めていきます。



URは、あらゆる分野において、幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化して、持続可能でレジリエンスの高い循環共生型のまちづくりをめざしています。



住環境でのURの取り組み事例(省エネルギー設備・グリーンインフラの推進)



技術開発等の変遷

1955年の日本住宅公団設立以来、60年を超える長きにわたり、住宅不足の解消・高度経済成長・少子高齢化・環境への配慮等、時代のニーズに応えるために技術の開発・活用等を行ってきました。今後さらに、IoTやAI等の先端技術を活用した豊かで夢のある暮らしの実現に向け、技術の開発・活用等を進めていきます。



※1 PC工法…建物の基本となる部材をあらかじめ工場で製造した後、現場へ持ち込み組み立てる工業化工法。
 ※2 KSI住宅…長期耐久性を有するスケルトン部分(建物の骨組みである躯体や共用部分)と、変化や更新への対応が可能なインフィル部分(住宅の内装や設備)を、明確に分けた住宅。各戸単位の改修がしやすく、将来の市場ニーズ等に迅速に対応できるプラン変更や用途変更を可能にする。